

勝田公民館新築工事設計・施工業務
公募型プロポーザル要求水準書

令和6年10月
美作市

《目次》

第1 施設の整備方針.....	4
1 基本事項.....	4
2 公民館の建設基本方針.....	4
3 公民館等の想定規模.....	4
4 公民館等主要諸室の構成.....	5
5 計画における前提条件.....	6
第2 施設の設計及び建設に関する要求水準.....	7
1 敷地の前提条件.....	7
(1) 建設計画地.....	7
(2) 敷地面積.....	7
(3) 地域地区等.....	7
(4) 地盤特性.....	7
2 設計の前提条件.....	8
(1) 建築物の構造種別・規模.....	8
(2) 耐震性能.....	8
(3) 高齢者等に対応した施設性能.....	8
(4) 施設の耐久性能・更新性能.....	8
(5) 地球環境保護への配慮.....	9
(6) 変化に対する対応性の確保.....	9
(7) 標準仕様.....	9
3 施設構成.....	10
(1) 施設の概要.....	10
別表第1 【特に求める機能および規模想定】	11
4 設備計画.....	12
(1) 情報通信設備.....	12
(2) 屋内照明設備.....	12
(3) 放送設備.....	13
(4) 予備電源設備.....	13
(5) 空調設備.....	13

(6) 給湯設備.....	13
5 外構計画.....	13
(1) 屋外照明設備.....	13
(2) 駐車場.....	14
(3) 排水計画（移設）.....	14
(4) その他（外構）.....	14
6 アーバンスポーツ施設計画.....	15
(1) 施設の規模及び整備内容.....	15
(2) スケートボードパーク、BMXパーク.....	16
別表第2【スケートボードパークエリア及びBMXパークエリアに設置する 各セクション仕様】.....	17
(3) 3×3バスケット.....	18
別表第3【3 x 3バスケットコートに設置設備の仕様】.....	18
(4) 屋外ステージ.....	18

《その他別添資料》

別添敷地図

別添資料① 地盤調査資料

別添資料② ひまわりドーム柱状図

第1 施設の整備方針

1 基本事項

本要求水準書は、市が発注する勝田公民館新築工事設計・施工業務の参加希望者を募集及び選定するに当たり、配布する「勝田公民館新築工事設計・施工業務公募型プロポーザル実施要領」（以下「実施要領」という。）とともに添付されるものである。

本要求水準書は、本業務に対して提示した実施要領の詳細を補填・明示し、市が本事業に要求する施設の整備内容の建築物等（アーバンスポーツ施設含む）ならびに諸室の基本的な機能の詳細を想定し規定するものであり、参加希望者はこの水準を参考にしつつ、地域の望む特色のある設計・提案することを目的とする。

なお、言葉のニュアンス等疑義がある場合は、実施要領6. プロポーザル（技術提案）のテーマの3項目を計画の優先事項とする。

2 公民館の建設基本方針

公民館には、一人一人の生涯にわたる学びを支援するという役割に加え、地域の活性化や防災拠点などとしての役割も強く期待されている。また、住民参加による地域課題の解決など、住民の学習と活動を支援する機能を一層強化することも求められている。

市民や本市で働く人々、来訪者等の誰もが気楽に立ち寄り、学習できる施設であるとともに、子育て世代を支援できる施設を目指し、若者から高齢者まで誰もが気軽に「集い、親しみ、繋がる」魅力ある勝田地域の拠点となる施設とする。また、防音設備の備わった広いフロア、充実した図書コーナー、飲食可能でみんなが集えるフリースペースを核とした公民館とする。

併せて、充実したハイレベルな各種アーバンスポーツ設備を併設整備することで、県北のアーバンスポーツの拠点として、多くの若者が集い交流する施設を目指す。

完成後は、市民の主体的な学習活動を支援するため専門職員を配置し、生涯学習やまちづくりの拠点として、また、災害時には避難所としての機能を備えた施設とする。

3 公民館等の想定規模

公民館建設地については、道路から駐車場や施設への動線や、公民館の中からも「見える」アーバンスポーツ施設の配置など、現状の地形を有効に利用できるよう配慮すること。

また、公民館の規模は、次のとおり想定しているが、具体的な会議室、事務所等の面積や配置については、実施設計の段階で協議を行いながら進めるものとする。

規 模	公民館 延床面積：600 m ² 程度 (木造平屋建て、一部鉄筋・鉄骨コンクリート造可能) 敷地面積：建築部分約2,860 m ² (ひまわりドーム周辺のグラウンド面積 5,130 m ²) 駐車場：45 台程度 (敷地内で分離して計画可能)
機 能	対象地域住民の連絡・調整機能 多世代交流機能 子育て支援・子ども応援機能 事務所執務機能 アーバンスポーツ観覧機能 防災拠点・避難所機能
施設管理 配置人数	常駐1人(図書業務兼務)
最大収容 人 数	110人(一時避難時収容想定人数)
備 考	2,430人(対象地域人口)

4 公民館等主要諸室の構成

公民館及びその他付帯施設等の主要諸室の構成については次のとおりとする。

区 分	諸 室
公 民 館	会議室、防音室(楽器等保管庫・ダンス用鏡併設)、図書室コーナー(学習スペース)、コミュニティスペース(飲食スペース)、事務室、放送室(アーバン広場向け)、調理室、屋内屋外共用トイレ、ホワイエ(展示フロアー)、倉庫(災害備蓄倉庫含む)
そ の 他 付帯施設等	アーバンスポーツ施設 (スケートボード・BMX 競技場(各々880 m ² を想定)) 3×3 バスケットボールコート(2コート) 屋外用舞台(5m×8m程度) 駐車場45台程度以上 外構
その他事業に 必要な工事	敷地造成、用排水路移設工事 ※既存のグラウンドの内、約3,120 m ² はそのまま多目的広場として活用する。ひまわりドームについては現状のままとする。(屋外用舞台については設置可とする)

5 計画における前提条件（別添 敷地図参照事項）

本業務の計画において、敷地内の施設等配置計画について明示する。

下記のとおり大きく三つに区分し、各内容に沿った配置計画とする。

① A区

計画施設のうち、公民館及び付帯施設等の配置を可とする。

② B区

駐車場スペースの補填用敷地として計画する。

※要求駐車台数に含めてよいものとする。

③ C区

原則として、現状のまま多目的広場とする。（地域住民が主にグランドゴルフに使用）

※屋外用舞台については、A区施設と一体的な利用につながる場合で、C区の利用の妨げにならない計画の場合は計画可とする。

第2 施設の設計及び建設に関する要求水準

1 敷地の前提条件

(1) 建設計画地

美作市 真加部 地内

(2) 敷地面積

8,214.4 m² (CADによる図測) ※A区、B区、C区合算敷地面積

(3) 地域地区等(別添敷地図に明示)

令和6年9月現在

ア 用途地域 都市計画区域外

イ 建ぺい率 無し

ウ 容積率 無し

エ 建物高さ制限 無し

オ 公共上下水 有り(上下水道ともに、おおよその位置を別添敷地図に明示)

- 東側主要地方道より新たに引込む計画とする。

この場合、引込費用は本工事費に含むものとする

- 下水は公共桝を引込済

(4) 地盤特性(別添敷地図に明示)

ア 土地使用履歴 農地～H19 造成(碎石敷)～H29 真砂土敷～現在に至る

イ 地盤調査 対象地中心地点を1箇所調査済(R6)

※標準貫入試験およびボーリング調査(サンプリング試料有)

別添資料①(閲覧可)

※隣地「ひまわりドーム」建設時の地盤調査データ有(柱状図)

別添資料②(閲覧可)

2 設計の前提条件

(1) 建築物の構造種別・規模

ア 構造

「木造」を主構造とし、機能上必要な場合は一部木造以外の構造を採用することは可とする。

イ 規模

「平屋建」とし、延べ床面積 600m² 程度を想定する。

ウ 計画耐用年数

「30年」を基準とする。

(2) 耐震性能

ア 建物構造体について

『官庁施設の総合耐震・対津波計画基準』を参考、『岡山県建築物耐震対策等基本方針』に準拠し、同「建築物単体の耐震対策一覧表」で示される区分「2」を適用、「別記 建築物の設計における耐震安全性の目標および保有すべき性能」において建物構造体安全区分Ⅱ類もしくはこれと同等の耐震性能を満たすものとする。

イ 設備について

上記「ア 建物構造体について」に準ずる。

(3) 高齢者等に対応した施設性能

ア 法令準拠

施設の設計においては適合義務が無い場合でも『高齢者・障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律(バリアフリー法)』に示された基準を満たすよう努め、加えて『岡山県福祉のまちづくり条例に適合するように努めること。

イ ユニバーサルデザイン推進

上記バリアフリー法に加え、あらゆる世代や立場の方々が施設を使いやすくように配慮や工夫を施した施設になるように努めること。

(4) 施設の耐久性能・更新性能

ア 耐用年数等について

施設の構造および外部仕上についての耐用年数 30 年以上を目標とした設計をすること。

もしくは、この期間に少なくとも 1 回の保守行為としての修繕や更新が必要な内容にて設計する場合は、施工性や材料等に配慮や工夫をし、ライフサイクルコストを抑えられるようにすること。

イ 内部仕上について

個々の部位、部材、仕上等の耐用年数については特に定めないが、少なくとも計画耐用年数中の修繕や更新の必要性を考慮し、容易かつ合理的な維持管理・保全が行えるよう工法や素材に配慮や工夫を行うこと。

ウ 設備について

設備の耐用年数については特に定めないが、少なくとも計画耐用年数中の更新の必要性を考慮し、容易かつ合理的な設備機器の選定や配置を行い、更新についても行えるよう配慮や工夫を行うこと。

また、イントラネットについては今後の進展性に配慮し、追加や更新性に配慮や工夫を行うこと。

(5) 地球環境保護への配慮

本施設の設計・施工の計画及び実施においては、「省エネルギー法」に示されたエネルギー使用の効率に関する基準を積極的に参照することをはじめ、建築的手法による省エネを極力多く取り入れ、設備的手法になるべく頼らない建築物とするよう努めること。

また、運用面(光熱水費)についても建物のライフサイクル全体での省エネルギー及び省資源化に努めることで、地球環境保護へ配慮すること。

(6) 変化に対する対応性の確保

市は事業期間中の基本的な用途の変更等は想定していないが、将来的な革新、行政サービスの変化、ユーザーのニーズの変化をある程度予測して、建物及びその構成要素の機能的柔軟性の確保と施設の陳腐化の予防に対応できる建築物とするよう努めること。

(7) 標準仕様

ア 公共施設部分の設計及び施工においては、原則として次に掲げるものの最新版を参照するものとし、各仕様書の第一章(「一般共通事項」)及び各章の第1節(「一般事項」)を共通仕様として用いること。

- ・ 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 建築設計基準及び同解説(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 建築構造設計基準及び同解説(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 官庁施設の総合耐震・対津波計画基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 建築設備設計基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部)

- ・ 建築設備計画基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 公共建築工事積算基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 公共建築数量積算基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ 公共建築設備数量積算基準(国土交通省大臣官房官庁営繕部)
- ・ その他官庁営繕、建築学会等の技術基準
- ・ 建築工事安全施工技術指針・同解説

以下、上記補足として、

- ・ 舗装工事共通仕様書(岡山県土木部)
- ・ 土木工事共通仕様書(岡山県土木部)

以下、まとめて「建設工事共通仕様書」という。)

イ 建設工事共通仕様書の適用以外の部分についても、基本的には周辺自治体等を調査の上、公共施設の標準的水準を示すものとして参照するものとする。

ウ 概算費用の範囲内であれば、一部仕様において標準的な域を越えることも可とする(計画コンセプトの強調)

3 施設構成

(1) 施設の概要

ア 用途・部門構成

当施設本館は主用途として『公民館』と位置づけ、社会教育施設として冒頭にある「第1 施設の整備方針」に沿った構成とし、主に下記の部門から構成される。また、求める詳細については基本的事項を省略し、特に求める機能について別表第1にて明示する。

なお、管理形態については原則として次のとおりを予定する。

- ① 平日昼間(8:30~17:00)は常駐管理を予定
- ② 休日(祝祭日含む)及び夜間(17:00~)利用時は非常駐管理とし、事前申請後、鍵の貸借を行う運用形態を予定

- I. 共用・共有部門
- II. 子育て・社会教育部門
- III. 管理部門
- IV. 外構部門

別表第1【特に求める機能および規模想定】※セキュリティゾーンは事務室のみを予定

部門	必要諸室	求める機能等	規模
Ⅰ 共用・共有部門	エントランスホール ・風除室を設ける ※外部に返却用ブックポストの設置予定	① コミュニティスペース 簡易的なミーティングに使用できるようにする。 持ち込みによる飲食ができるようにする。 簡易的なホワイエ（展示コーナー）を兼ねる。	40 m ²
		② 図書コーナー（兼学習スペース） 開架にて図書（5,000冊を想定）を常設するための書架の設置スペース、別途閲覧兼学習コーナーを設ける。	100 m ²
		③ スポーツ観覧コーナー アーバンスポーツ会場を観覧でき、一望できる位置に計画する。※一部屋外への計画も可 玄関等からのアプローチに配慮する。	40 m ²
		④ キッズスペース（幼児） スポーツ観覧コーナーに隣接し、児童用書架を設け、児童図書閲覧スペースを設ける。 授乳室を近接させる。 他のフロアと区別させ、床面についてもクッション性があり容易に清掃が出来るものとする。	30 m ²
	管理事務室 ・別途倉庫を設ける	1名の常駐人員（事務と図書業務兼務）を想定する。 郵便等外部投函口を設ける。 受付カウンターを設ける。	30 m ²
	トイレ（男女別） 多目的トイレ （だれでもトイレ）	内部および外部共用とし、常時解放を予定のため、外部からも利用できるよう配慮する。 多目的トイレ内には幼児用トイレを併設する。	30 m ²
Ⅱ 子育て・社会教育部門	活動室（防音室） ・別途倉庫を設け、外部からもアプローチできるようにする。 （兼防災用備蓄倉庫）	ブレイキン、社交ダンス、太鼓などの大きな音での利用を想定（壁防音性能D-50） 室内履き（上履き）を想定する。 長辺方向の壁面に鏡（シート不可。床面から2m程度で連続長さ6m以上のもの）を設置する また、様々な用途に対応するため鏡の安全面に配慮すること。 床材は各種ダンスに使用できる硬質な材質のものとし、基礎面と床材の間に空間を設けるなど一定のクッション性を確保する。 照明設備について、様々な利用形態が想定されることから安全面に配慮した照明器具とする。 倉庫に、充電用コンセントを余分に設ける。	130 m ²
	調理室 ・別途倉庫を設ける	会議ができるような形態とし、これを踏まえた調理器具・設備の選定と配置をする	60 m ²
	会議室 ・別途倉庫を設ける	2室に分割し、独立使用できるようにする	60 m ²

目 管理部門	給湯室	内部および外部共用とし、外部からも利用できるよう配慮する。	適宜
	放送室	内部および外部共用とし、外部からも利用できるよう配慮する。	適宜
Ⅴ 外構部門	屋上（一部使用可）	アーバンスポーツの観覧を主な目的とし、各種用途に対応したスペースとする。 外部から直接アプローチできるようにする。 簡易な屋根を備え、良好に観覧できるよう配慮した位置に計画する。	適宜
<p>※1 その他要求性能等を満たすために必要と思われる諸室や什器については、適宜計画し適切に配置するものとする。</p> <p>※2 施設管理上必要な機械室等については、適宜適切に配置するものとする。</p> <p>※3 諸室面積については、参考とし、設計者にて再度精査検討を要するものとする。</p>			

4 設備計画

ここでは、各部門の空間機能要件で示した施設の用途、規模等を勘案し、施設の快適性及び利便性を確保するために必要となる電気設備及び機械設備について示す。

なお、特記すべき要件のみ示すものとし、それ以外の建物全体及び単位空間レベルでの快適性・安全性・衛生性・利便性を確保するために設置すべき設備システム及び機器の選択、並びに個々の設備の性能及び仕様については、建築工事等共通仕様書を参考としつつ、参加希望者が自らの判断に基づいて計画提案するものとする。

(1) 情報通信設備

ア 館内にて無線 LAN (Wi-Fi) による通信が可能となるように、ルーターを配置し、幹線敷設用ケーブルラックや必要な配管・配線を行う。なお、引き込みについては美作市光ネットワーク（みまチャンネル）を利用し、美作市防災無線の設置を行う。

イ 各室の接続用 HUB（モジュージャック）は、美作市業務用サーバー並びに図書館サーバー等各部門の空間機能要件に基づき、各室の用途に応じて適切と思われる位置と数を計画する。

(2) 屋内照明設備

「JIS Z9125 : 2023」に基づいて建物内各部の室内照度を確保するよう、照明設備の仕様・配置を定める。また、空間機能要件に基づき、人感センサー及び昼光センサーを含む調光システムの活用をし、過度な照明利用にならないよう配慮した計画提案とする。

また、照明機器の交換が簡易に行えるよう配慮した計画提案とする。

(3) 放送設備

ア 消防法に定める非常放送及び業務放送兼用設備とし管理事務室に設置する。なお、外部用スピーカーも設置を行う。

イ スピーカーは天井埋め込み型とし、スピーカーを設置する諸室には音量調整器を設け、個別の音量調整が出来るようにする。

ウ 放送室については外部イベント用音響として利用できるよう、AV 機器の設置を適切に計画する。

(4) 予備電源設備

特に求めないが、計画上の特色上必要であれば任意で計画する。

(5) 空調設備

マルチ方式の採用を原則とし、諸室管理および管理事務室にて監視もしくは集中管理が出来るようにする。

(6) 給湯設備

局所式及び中央式の選択については利用形態に応じて適切と思われる計画行う。

5 外構計画

ここでは、主に駐車場と敷地内通路（アーバンスポーツ施設内の仕様は除く）その他の外構計画について示す。

公民館建築物とその他付帯工事のエリアとの境界は最低約 3mの敷地内通路を設けるものとするほか、既存ひまわりドームと計画施設エリアとの境界には最低約 5mの敷地内通路を設けるものとする。

なお、スケートボードパークと BMX パークをある程度分離する計画の場合は、離隔距離はなくてもよいが、3×3 コートエリアについては適切な離隔距離をとるものとし、参加希望者が自らの判断に基づいて計画提案するものとする。

(1) 屋外照明設備

警察庁「安心・安全まちづくり推進要綱」に基づいて、外灯の照度・配置計画を定める。また、上記に基づいた照度を確保できる範囲で調光機能を有し、加えてタイムスケジュール管理が行えるなど柔軟な設定が行えるような仕様に努めること。

なお、アーバンスポーツ用外部照明設備においては、場内平均照度 100 ルクス以上（机上面）とし、下記に参考的仕様を示す。

＜外部照明設備参考仕様＞

夜間照明:場内 6 箇所設置予定

1 箇所当り 2 灯用架台+投光器 2 台(MF400 相当)+防犯灯 1 台(7 VAFL20×1 相当)
丸形ポール屋外コンセント付き H5000 (地上高)

(2) 駐車場

車椅子使用者等用駐車スペースを 2 か所以上含めること。
また、通常駐車スペースについても比較的余裕のあるスペース/台とすること。
マイクロバスが進入・転回できるような配置計画もしくはスペースを確保すること。
なお、舗装仕上げについては、下記表のと通りの仕様を確保すること。

	駐車場 舗装厚	通路 舗装厚
表層工 密粒度アスコン	4 cm	3 cm
上層工 粒調碎石	7 cm	5 cm
下層工 C-30	10 cm	10 cm
※仕上げ高さは、既設舗装面高さとする		

(3) 排水計画 (移設)

既設排水路 (自由勾配型側溝 農業用用水) は撤去し、ひまわりドーム側の敷地内通路 (幅員 5m 計画通路) へ移設すること。(ア)

加えて、スケートボードパーク・BMX パーク・バスケットコート表面水の排水計画を立てること。(ア、イ)

ア 既設可変側溝撤去移設

- 新設 (自由勾配型可変側溝) L=58.7m
 - ・コンクリート蓋 58 枚 (一部再利用)
 - ・集水柵 (現場打ち集水柵) 3 箇所
 - ・鋼製ます蓋 3 枚 (一部再利用)
- 撤去 (自由勾配型可変側溝) ・集水柵

イ 場内排水路 PU250 型側溝 L=64.0m (県道側)

(4) その他 (外構)

防犯カメラを外部敷地内に 2 台以上適宜計画し、駐車場およびアーバンスポーツエリアの防犯対策とすること。

なお、うち 1 台は既存施設「ひまわりドーム」の建築物に設置することも可能なものとし、管理事務室にモニターおよびハードディスクを設置する。

<防犯カメラ関連の参考仕様>

- ・防犯カメラ 全天候型赤外線カメラ 2 台 (LED 付)
- ・アナログ HD VP カメラ電源ユニット 1 基
- ・4CH アナログ HD DVR (HDD 無し) 1 基
- ・録画用ハードディスク容量 2TB 1 基
- ・21.5 型液晶ディスプレイ (HDMI ケーブル付き) 1 基

植栽計画については、グラウンドカバー程度にとどめ、意味のある計画を適宜行うとともに、過度の植栽計画 (低木や生垣は不要) にならないよう努めること。

6 アーバンスポーツ施設計画

ここでは、アーバンスポーツ施設の整備、セクションの種類、内容及び配置等の計画について示す。

近隣の同様の施設と差別化を図り、主に中級から上級者に向けたオリジナリティある設備やセクションを主体としたBMX、スケートボードパークとすることを目的とする。加えて、フラットなスペースを設けるなどパーク内にて初心者でも楽しめるような施設計画を行うものとする。

その他、必要と思われるものについては参加希望者が自らの判断に基づいて計画提案するものとする。

(1) 施設の規模及び整備内容

各施設の寸法、仕上げ、設置物、外構等については次のとおりとする。

工 種	①スケートボードパークエリア BMXパークエリア	②3×3 バasketコート
エリア寸法	40.0m×22.0m×2 (一体型)	18.0m×28.0m (2面)
仕上げ	コンクリートこて仕上げ (両勾配0.5%以下とする) コンクリートカット3000クロス 巾3mm未満 深さ15mm	5色ペイント塗装 コートライン1色 絵柄等は5色
舗装厚	表層 t=10cm コンクリート舗装(18-8-40BB) 溶接金網(線径3.2mm 網目100mm) 下層 t=15cm C-30	表層 t=3cm 密粒度AS舗装 上層 t=4cm 粗粒度AS舗装 下層 t=10cm C-30
防護柵 ①と②をそれぞれ4面設置(取り囲み)を原則とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・主柱 亜鉛・アルミ・マグネシウム合金 めっき H=1.2m ・ハイテンション線 ・3種亜鉛めっき ・門扉 H=1.2m W=1.2m 片開き 3箇所 H=1.2m W=4.0m 両開き(吊下式) 2箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・H=5.0m(高尺フェンス)控柱有 両ゴール側18.0m+左右6.0m 主柱 φ60.5mm×2.3mm 控柱 φ60.5mm×2.3mm メッシュ φ2.6mm×50mm ・H=2.0m(フェンス) 16.0m メッシュ φ2.6mm×50mm 主柱 φ60.5mm×2.3mm ・門扉 2箇所 H=2.0m W=1.2m 片開き
セクション等	スケートボードおよびBMXの中・上級者用の各セクションを標準として提案すること。(別表第2) なお、初級コースはコンクリートにて造形可とする。(スケートボード側)	別表第3によるものを標準とする。

(2) スケートボードパーク、BMXパーク

ア スケートボードパークとBMXパークは一体的な利用が出来る施設とし、エリア内に初級コース及び中・上級コースを設置するものとする。

イ パーク内への出入口は、初級者コースと中・上級コースとで別々に設けること。

ウ 初級者コースは、スケートボード側に設けること。

エ スケートボードパークエリア、BMXパークエリアにそれぞれ資機材搬入出のための門扉（W=4.0m程度）を設けること。

オ スケートボードパークエリアとBMXパークエリアの境界に可動式の仕切り器具を設置すること。

カ スケートボードパークおよびBMXコート内に設置する主要機材（各セッション）の材質等は以下のとおりとする。

主要機材	材質・規格等	
	スケートボードパーク	BMXフリースタイルパーク
表面材および表面下地材	① 各セッションの表面材は、フェノール樹脂に浸した繊維圧縮版（6mm）とし、仕上色については淡色系とする（BMXを含む）。 ② 下地材は、中密度ポリエチレンボード（12mm）とする。	① 各セッションの表面材は、フェノール樹脂に浸した繊維圧縮版（6mm）とする。なお、表面にはグリップ力を高めるためBMXフリースタイル競技に適した特殊塗装を施すこと。 ② 下地材は、中密度ポリエチレンボード（12mm）とする。
フレーム骨材等	① 土台、フレーム、エッジ補強金具等の受け材は、電気亜鉛メッキ後ウレタン塗装2回塗り仕上げとする。	同左
ボルト・ナット類	① すべてステンレス製とし、面材、下地、フレーム材の固定方法はボルト、ナット止めとする。	同左
その他	① 本製品はメンテナンス上国内製造製品とし、一般社団法人日本公園施設業協会に加入するSP、SPL表示認定企業の製品とする。	① 本製品はメンテナンス上国内製造製品とし、一般社団法人日本公園施設業協会に加入するSP認定企業の製品とする。
	① 本製品の保証期間は2年間とする。（自然災害による場合は除く）	同左
	① 本製品は、日本スケートボード協会会員企業の製品とする。	① 本製品は、一般社団法人全日本フリースタイルBMX連盟承認（3年間）の製品とする。
	① 社団法人日本公園施設業協会賠償責任保険制度による生産物賠償責任保険等の公園施設団体賠償責任保険に加入のメ	同左

	<p>ーカーの製品とする。 (1 事故当たりの保障額 対人：5 億、対物 2 千万円)</p>	
--	---	--

別表第 2 【スケートボードパークエリア及びBMXパークエリアに設置する各セッション仕様】

	スケートボードパーク 規格・寸法(mm)	数量	BMXパーク 規格・寸法(mm)	数量
セッション①	複合バンク 1 H=600 W≒5750 L≒6470	1 基	セッション 1 H≒3000 W≒3600 L≒4000	1 基
セッション②	クォーターランプ 1 H=1500 W≒2400 L≒3450	1 基	セッション 2 H≒2000 W≒3600 L≒3500	1 基
セッション③	バンク H=1500 W≒2400 L≒4410	1 基	セッション 3 H≒3000 W≒3600 L≒4000	1 基
セッション④	コーナークバンク H=1500 W≒5460 L≒5460	1 基	セッション 4 複合 H≒1800 W≒3600 L≒9000	1 基
セッション⑤	クォーターランプ 2 H=1500 W≒4540 L≒4540	1 基	セッション 5 複合 H≒1800 W≒4300 L≒9000	1 基
セッション⑥	複合バンク 2 H=600, 900 W≒4803 L≒6470	1 基	セッション 6 H≒1800 W≒3600 L≒4500	1 基
セッション⑦	レール (フラット型) H=400 L≒4000	1 基	セッション 7 H≒2000 W≒3600 L≒3500	1 基
セッション⑧	マニュアルパット H=300/150 W≒1400 L≒2400	1 基	セッション 8 H≒4000 W≒3600 L≒4000	1 基
セッション⑨			セッション 9 H≒2000 W≒3600 L≒350	1 基

(3) 3×3バスケット

- ア コート内に設置するバスケットゴール並びにゴールの材質等は以下のとおりとする。
- イ 既存のバスケットゴールについては監督員の指示により移設すること。場所については協議により決定とする。

別表第3【3×3バスケットコートに設置設備の仕様】

設備名称	形状・寸法等
バスケットゴール	<ul style="list-style-type: none">・単柱式・アーム寸法：1500mm 鋼管 φ89.1mm・補助アーム：鋼管 φ34.0mm・ゴール板：アルミパンチングボード 支柱 φ139.8mm・バスケットゴール用防護マット H=2000mm t=30mm・芯材：ポリエチレン・外皮：ターポリン・マジックテープ固定式・ゴール基礎：1200mm×1200mm H=800mm 2箇所

(4) 屋外ステージ

- ア 施設の規模は5000mm×8000mm以上とし、床面については設置面（GL）+800mm程度を想定する。
- イ 構造は床面も含めて鉄筋コンクリート造とする。
- ウ 屋根は不要とする。
- エ 床面についてはイベント使用時に使用形態に応じて、別途シート等（対象外）を敷いて使えるようにする。
- オ 屋外ステージについては各種イベントの舞台、表彰、ダンスの発表等で使用することを想定しており、多目的に利用が可能な位置に計画するものとする。
- ※各エリアのフェンス門扉の干渉に特に注意すること。